

2013年11月30日

青少年自立支援センター ビバの会 ビバハウス

ご支援の皆様への創設13周年記念日(9月1日)を迎えてのご
報告

1) ビバハウス設立の目的と経過

別紙「ビバハウス略年史」(ビバHPに掲載をご参照ください)

2) ビバハウスの現状(利用者の実態)

現在の利用者は、男性9名(内1名入院中)、女性4名計13名(満室)、年齢は13歳から47歳まで

3) 解決すべき課題

A) 経営者の高齢化(俊子70歳、尚男74歳)も踏まえ、「日本労働者協同組合・ワーカーズユープ」との将来の組織的統合について検討を開始した。10月17日東京本部より専務理事を迎え今後の協力体制について協議した。

(当面は小樽、後志地域での困窮者救済・就労支援事業などに共同で取り組むことを確認した。)

B) スタッフの資質の向上(日常的な任務の点検、緊密な意思統一、研修会などへの積極的参加などを含)。

C) 健全経営の実現、利用者の経済的負担の軽減

4) 将来への展望（ビバハウス第2期長期構想）

A) 「年寄り・若者 元気村」 構想の実現

ビバハウスから車で約10分の山林約1万坪を昨年入手した。この大自然を全面的・多角的に活用する。

現在、原木しいたけ生産(過去に実績がある)、野菜、草花、ハーブの栽培、各種の文化的活動などを計画中。(詳しくは、HPの「ビバハウス便り NO.94」をご覧ください。)

B) 「ひきこもりの若者と生きる」(2007年、高文研発行)の続編の発行計画。(2008年～2014年間の活動報告～新たな「ビバハウス便り」NO.51より NO.100までの該当文を収録する予定。最新号はNO.94)

C) 非行青少年の救済(具体的にすでに数件の実績があるが、今後北星余市高校などとも協議を重ね、状況にふさわしい組織対応を計画したい。)